

海と山と空に呼応する公園のような体育館



香川県の恵まれた自然環境に呼応する穏やかな屋根をもつ体育館を提案します。島々が浮かぶ瀬戸内海、背後に連なる讃岐山脈、そして空と一緒に象徴的な風景をつくり出します。

高さを低く抑えられた一枚の大きな屋根は3つに分節され周辺のまちにとけ込んでいきます。

低い軒先と底空間が所々で高くなることでアプローチやまわりの広場に開き、多様で有機的な関係をつくります。



周辺環境と体育館が一つとなり公園のような新しい公共空間をつくりあげる

周囲の広場や海、島々と連続した新たな玄関口

海と高松の街をつなぐ文化拠点

周囲に開くように多方向にアプローチを設け、人々が集いやすい計画とします。さまざまな特性の周辺施設と連携し瀬戸内のスポーツ・文化・交流の拠点をつくりあげます。

イベント時以外の利用

スポーツやコンサートなどのイベント時以外も、自由にアクセスでき、公園のような公共性を持ちます。

多様な関係性を生み出す明快な構成

■色々な使い方を可能にする平・断面計画

2つのレベルは周辺のレベルからスムーズにアプローチできます。



1. アリーナレベルと公園レベル(観覧席)を明快にわけて、分かりやすく管理のしやすい構成とします。
2. アリーナレベルでは3つのスポーツ広場が一つにつながっています。
3. 公園レベルでは、3つのスポーツ広場は分棟になっており、単独利用と一体利用のどちらにも使えます。
4. 屋根は半屋外を含みながら3つの広場を一つにまとめています。スポーツ広場は、多目的広場やプロムナード、海など周りのいろいろなもの関係をもちながら多様な使い方を生み出します。

やわらかい屋根がいろいろな活動を包み込む

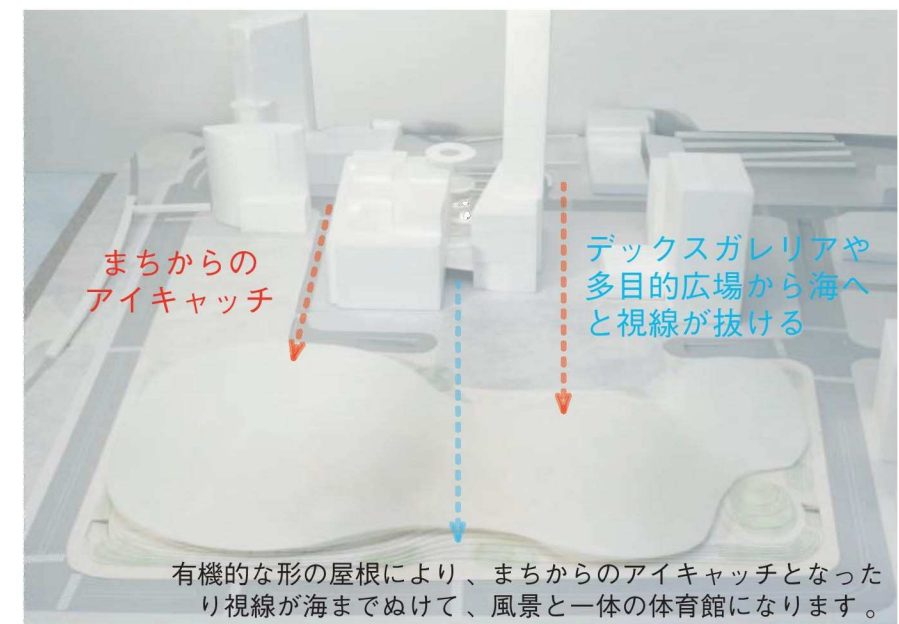
■まちへと広がるスポーツ広場

それぞれのスポーツ広場は、アリーナ、交流エリアなどが一体となったワンルームの空間です。大きな屋根は半屋外空間を含みながら3つのスポーツ広場を一つにまとめ、周辺の広場とつながります。そこに集まるいろいろな人たちが、時間と空間を共有することを感じることができる空間です。



■屋外にいるような快適性

スポーツ広場は、アリーナも交流エリアも、音環境や空調環境を含めて屋外に近いような快適性を目指しています。



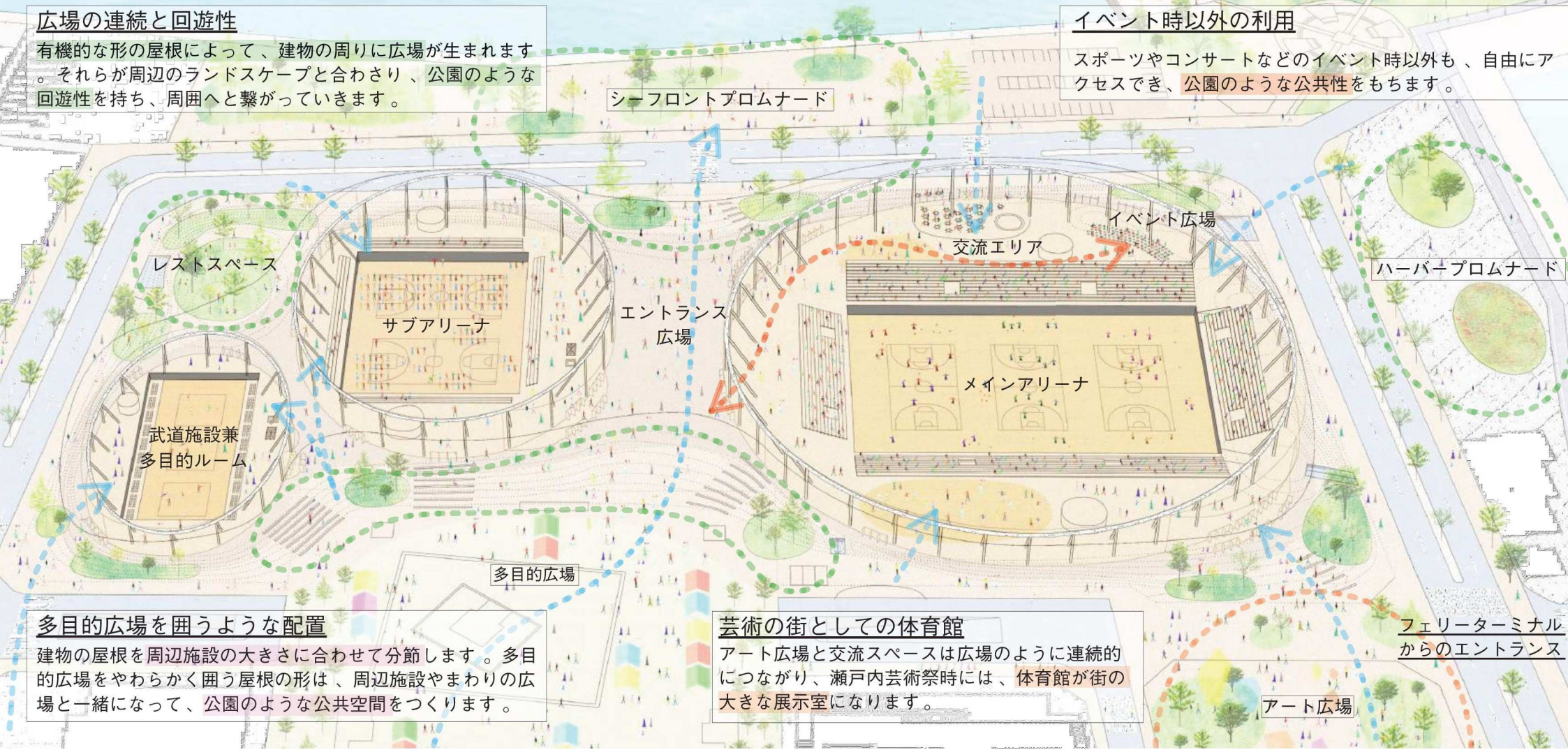
有機的な形の屋根により、まちからのアイキャッチとなったり視線が海までぬけて、風景と一体の体育館になります。



3つのスポーツ広場とまわりのランドスケープによって回遊性のある公園のような場所となります

広場の連続と回遊性

有機的な形の屋根によって、建物の周りに広場が生まれます。それらが周辺のランドスケープと合わせ、公園のような回遊性を持ち、周囲へと繋がっていきます。



多目的広場を囲うような配置

建物の屋根を周辺施設の大きさに合わせて分節します。多目的広場をやわらかく囲う屋根の形は、周辺施設やまわりの広場と一緒に、公園のような公共空間をつくります。

芸術の街としての体育館

アート広場と交流スペースは広場のように連続的につながり、瀬戸内芸術祭時には、体育館が街の大きな展示室になります。